ソーラー4輪自転車プロジェクト イベントミッション 総括

はじめに

近年、観光行動は多様化の一途を辿り、今まで着目されてこなかったものが観光資源として脚光を浴びている。時として、現地の人が価値として感じていないものが観光者にとっては目新しいものとして受け取られ観光資源となることも少なくない。登山をするときにロープーウエイを使わず、あえてトレッキングという苦しみや怪我の危険性を伴う手段を選択したり、手間のかかる農家の収穫体験などが例として挙げられる。

こと自転車についても、移動にかかる時間や労力という観点からすると他の移動手段と比較すると劣った乗り物であるが、しまなみ海道をはじめとする日本各地で、移動そのものを楽しむことのできる観光資源として活用される事例がある。われわれが所有する四輪自転車はあまり他では見ない構造をしており、縦

ではなく横に二人乗りができるようになっている。この特性に着目し、ソーラー4輪自転車プロジェクトイベントミッションでは、四輪自転車が観光資源としてどのように活用できるのか、を調査することにした。しかし、活動出来る人間が私 1 人しかいなかったこと、計画を進めるにあたり当初想定できなかった課題にぶつかり、成果を生み出すことが出来なかった。今回の総括では、プロジェクトをはじめたあとにわかった課題についても述べたいと思う。

昨年の活動からのフィードバック

昨年度は 12 月の南紀熊野サテライトでの体験試乗会

3 月度の高野山でのアンケート調査、走行実験

イオンモール和歌山での児童向け体験試乗&アンケートの 3 つの活動を行なった。私はこれらの活動から、4 輪自転車の持つ特性、活用のためのニーズ、ターゲットを明らかにしようと試みた。

このアンケートで我々は年齢や性別といった基礎属性のほかに

◆　乗っていて楽しかったか

◆　また乗ってみたいか

◆　どんなところで乗ってみたいか

という３つの項目を体験者に聞いた。

しかしこれらの設問はすべて何を基準に楽しい、乗ってみたいかを判断しているかがそれぞれ人によるものであり、これらのアンケート結果を根拠に 4 輪自転車が世間に受け入れられる楽しい乗り物である、という風には説明することができないという評価をミッション審査会で下された。そこで今期の活動では、アンケートの作り方から根本的に見直し、4 輪自転車のニーズを探った上で最終的に 4 輪自転車を使うイベントを開催することとした。

当初想定していた年間予定

5 月 アンケート実施

7 月 アンケートを踏まえた体験試乗調査の内容決定

10 月 体験試乗調査

11 月 フィードバック

2 月 フィードバックを踏まえた何らかのイベントの実施

当初想定していなかった課題の発生

前述の通り、4 輪自転車は日本ではまだ浸透しておらず、一般の方の需要を調べるためには実際に乗ってもらうことが必要であると判断した。

ここで、体験をしていただくにあたってどのようにして体験者の安全を保証するのか、という課題が発生した。

今まで我々が実施してきた体験走行や公道走行は、イオンモールやサテライトキャンパスなど管理者が明白なところであり、乗車するのは組織に所属する学生のみであり、有事の責任の所在が明らかであったが、公道走行を一般の方に体験していただく際に、安全を 100%保証することは難しく、この課題をいかにク

リアするのか、という壁にぶつかってしまった。また、イベントミッションは私一人しか活動できる人間がおらず、この課題をクリアするためのアイデア出しが不十分に終わり、結果イベントが実施できないまま活動が収束してしまった。

熊野本宮大社でのレンタサイクルを用いた実験調査

イベントミッションで唯一やることのできた活動が、熊野本宮大社付近でのレンタサイクルを用いた走行調査である。当初、上記の課題が顕在化する前に、県内で四輪自転車を用いた体験走行イベントを開催する候補地として、熊野本宮大社付近が候補に挙がっていた。結局のところ四輪自転車を用いた体験イベントを実施することは叶わなかったが、もし今後のこのミッションの活動を引き継ぐことを希望する方がおられるのであれば、ぜひ参考にしていただきたい。

調査の目的

四輪自転車が走行しうるルートが存在するかどうかを、実際に走ってみて確認する。また近辺でレンタサイクルを貸し出している世界遺産センターに赴き、現在のレンタサイクルの利用者数や属性の分布などを聞き取り、それらのデータ

を参考に四輪自転車のニーズを探る。

調査の結果

世界遺産センターの方が運営されているレンタサイクルの利用者のために制作された上記のマップを参考にルートの景観や道幅の広さを実際に走行しながら確認した。四輪自転車の車幅（1080mm）で走行が困難な道はなかったが、対向車が来た時、走行量は少なかったが追い抜き車両が来た際には少し危険、不安を感じた。

また、レンタサイクルの利用者数などに関するデータに関しては、そもそもとってないない、とのことなので正確なデータを得ることはできなかった。しかしセンターの方によると、利用者は 1 日に 10 組を上回らないことが多く、理由としてレンタサイクルが観光客に周知されていないとのことであったため、仮に広報活動をしっかりされると、利用者数は増加すると考えられる。つまりそれと比

例して四輪自転車の需要も増えると考えられる。また、外国人利用者数がかなりの比率を占めているとのことなので、観光ガイドのような役割を持つ英語を話すことができるドライバーが左運転席に乗車し、右の席に観光客に乗ってもらう、というような人力車のような形の観光手段として四輪自転車が活用出来るのではないか、と考察した。

終わりに

結果的に、今年度のイベントミッションは当初審査会の段階で想定していたものとは大きくかけ離れた活動内容となってしまい、当初の達成目標をひとつもクリアすることができなかった。企画構成が甘かったこと、達成目的が曖昧なままミッション審査会に突っ込んでしまったこと、人が思っていたよりも集らず1人で進めなければならないことがほとんどだったことなど原因を挙げるとキリがないが、何よりも私の不甲斐なさが、認識の甘さが要因であったと強く反省している。この失敗経験を活かせるよう、今後の学生生活に取り組みたい所存である。